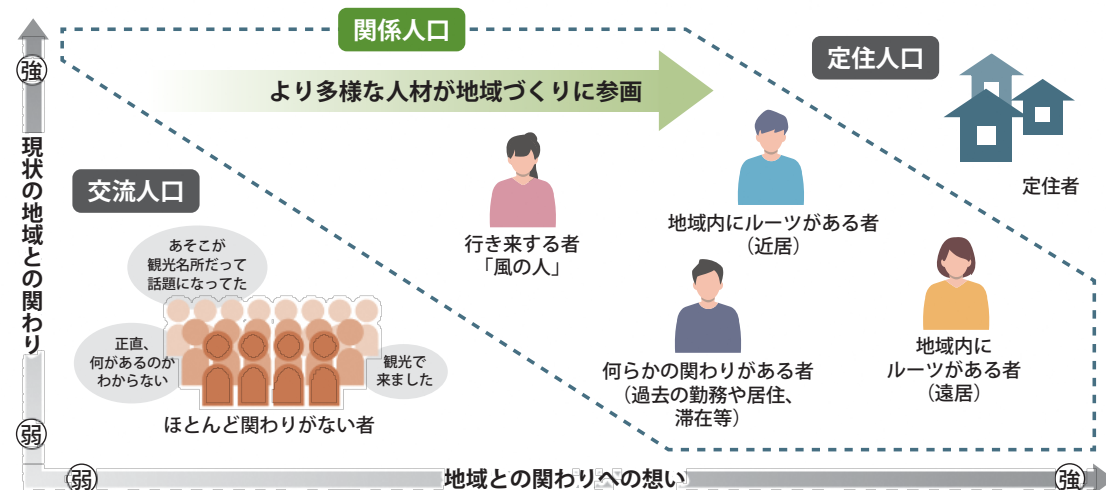


まちの「関係人口」

移住でも観光でもなく、定期的にある特定の地域を訪れて活動するなど、多様な形でその地域や地域の人々・企業等と関わりをもつ方々を「**関係人口**」と呼びます。

このように呼ばれる人々は、その地域に興味があり、関わっていききたいという想いを持った、言わばその地域の「ファン」のような人々です。

人口減少や高齢化により、地域づくりの担い手が不足する今、ゆるやかに関わりを持ちながら、ともに地域を盛り上げていく、そんな「関係人口」というあり方が、新たな地域づくりの担い手として期待され、注目されています。



▲関係人口イメージ図(総務省が示す関係人口の概念図を基に作成)

まちの「関係人口」づくりに携わるひと



元地域おこし協力隊
なかたに しょう 翔 さん

京都府出身。大学では臨床心理学を専攻。大学を休学し自転車で日本一周をした経験から「地域」や「地方移住」に興味を持ち、旅行会社や宿泊施設での勤務を経て、2016年4月から南越前町地域おこし協力隊として着任。任期終了後は「地域まるっと体感宿 玉村屋」を開業し、現在4年目。現在は8個以上の小さな収入源を積み上げる「複業暮らし」を実践中。



元地域おこし協力隊
うの あけみ 朱美 さん

福井市出身。福井市の企業に14年勤めた後、2018年7月から南越前町地域おこし協力隊として着任。趣味はドライブやイベント巡り。南越前町の日々の美しさに毎日感動！町のお気に入りスポットはアカタン砂防堰堤、右近家の西洋館、宅良の谷の風景。



地域おこし協力隊
たがみ かい 夏伊 さん

福井市出身。18年間、高校まで福井で育ち、横浜の大学で6年間建築学を勉強したのち、2021年4月から南越前町地域おこし協力隊として着任。趣味は、建築、サッカー、料理、読書。最近海を眺めることも。町のお気に入りスポットは自宅、水仙畑、温泉、シーサイドパーク。夕日が綺麗に見えるスポットを探索中。

3人にQuestion

◎南越前町を選んだ理由(きっかけ)

田上 地方都市に18年、都会に6年住み、次はいわゆる田舎の地域での暮らしを感じてみたいと思っていました。協力隊になる前から関心を持っていたアカタン砂防堰堤群があることも南越前町を選んだきっかけの一つです。

宇野 南越前町に興味を持ったきっかけは、町で2015年から行っていた流動創生事業です。流動創生事業で行っていたイベントに参加し、町の皆さんと知り合い、町に何度か足を運ぶうちに素敵な場所や人がいることに惹かれました。そんな中で南越前町の地域おこし協力隊の募集があると聞き、チャレンジしてみようと思いました。

中谷 都会で暮らしていたときから「地域にある資源を使って、地域を持続するものに整えるお手伝いがしたい」と漠然と考えていました。その中で自分の知識やスキルを役立てることができお仕事がしたいか探していたところ、行きついたのが南越前町地域おこし協力隊でした。最終的に選ぶ決め手となったのは、協力隊応募の前に現地訪問をしたこと。地域に住む方と会う機会があり、「協力隊の方々にすごく良くしてもらっていて、

なにかあるなら協力したいと思っていて」と聞いたことが、この地域に移住しても大丈夫という安心感が繋がりました。やはり、地域に移住するには、その地域で受け入れてもらえるという安心感が大切だと思います。

◎初めて来たときと今の町の印象

田上 自然の美しい風景があることに感嘆しました。当時は友達もおらず不安でしたが、今は日々周りの人々に助けられて生きています。ありがとうございます！

宇野 初めて宅良に来たときは、こんなに山の奥に行くのか！と心配になりました(笑)引越してきたその日に、近所のおばあちゃんにじゃがいもを頂いたり、挨拶にいったら「おう！よろしくな！」と声をかけて頂き、閉鎖的なイメージが払拭されました。

中谷 初めて来たときは、「ほどよく田舎で、そこそこの都会にも近い不便しない地域」という印象でした。約8年過ごした今は「宝物があるけれども、身近すぎて地域の人が気づいていない。これがいっかりと磨かれれば、魅力あふれるおもしろい地域になる可能性がある場所」と感じています。

◎感じている町の課題

田上 人口減少、少子高齢化など、課題を上げればキリがないですが、色んな課題を前提とした上でどんな未来が町にとって幸せなのか考えたり話し合えたりする場があると良いなと思います。

宇野 南越前町の推しポイントは日々の風景の美しさだと思います。その中で山が切り崩されているような開発が行われていると心配になります。

◎今後の抱負

これから先の長期的ビジョンをみんなで話し合えるような場所があるとういと感じています。
中谷 人口減少や高齢化、交通機関の問題など、多くの課題があると感じています。それらを課題として無理に補っていくのではなく、時代の変化に応じて柔軟に考えることで「地域の課題が魅力に変わる」と考えています。例えば、町外から人が訪れたときに「この地域は人口が減っていて、寂しくなる一方と嘆く声を聞くよりも「人は減っているけど、そこに生きる私たちはそれぞれが生きている」を持って楽しく暮らしているよ。」と話してもらった方が、この地域が魅力的に見える、再訪する人が増えるのではないのでしょうか。

田上 より関係性を増やしたいです。南越前町にまた来たいと思う人や、一緒に地域のことに取り組める仲間を増やしたいですね。そのために、今の活動に磨きをかけるとともに、取り組みに共感できるよう情報の発信にも努めていきたいです。
宇野 今年から勤めている福井市の会社で、体験型の研修や、地域でのインターン企画を新しく考えており、そういった企画を南越前町で開催していけるように動いています。もっと多くの方に、南越前町を訪れた際に町の良さに触れてもらえるきっかけを作っていきたいです。

中谷 地域の方から聞いた過疎化は人口が減ることではなく、心が寂しくなっていくことという言葉が胸に、わざわざ南越前町に訪れてくれる人々が「楽しかった。また来たい」と思ってくれるような役割を担うことで、南越前町が持続的な地域になることのお手伝いをこれからもしていきたいです。

▲3人がそれぞれ撮影したお気に入りのまちの写真



まちを舞台に活動する3人の取り組みをご紹介します。



田上 夏伊

昨年の4月から地域おこし協力隊として河野に移り住み、現在2年目の任期を迎えています。

1年目は住民の方々の様々な声を聞いたり、歴史や文化を学んだり、町のことを知るために東奔西走していました。

取材の際にカメラを持って良い写真を取ったり、小さな水仙畑で露地栽培を始めてみたり、移住者された方の住環境を整えるお手伝いをしたりなど、少しずつ自分のできる目の前の小さなことに取り組んでいました。



力を発掘しています。地域の方々は、地域外参加者の新鮮な視点によって、今まで当たり前で見ていなかった自分の住むまちの魅力を再発見します。普通の暮らしが他の人にとっては意外にも魅力的に映ることが、地域への愛着の向上を生んでいます。

この他にも、古本図書館を設置したり、建築のスキルを活かして地域の拠点をつくるお手伝いをしたりと、空き家活用の促進を目指しています。個人としては、勉強として、重要伝統的建築物群保存地区に選定された今庄宿内の空き家改修の設計サポートを行っています。



中谷 翔

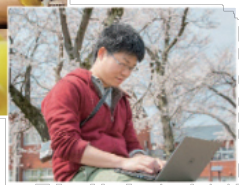
今庄宿にある「地域まるっと体感宿 玉村屋」や南条にある「農家シェアハウス」はななか荘の運営を行っています。どちらも、観光に来たから泊まるという施設ではなく、ここの地域を体験してみたいから泊まる、少しい間、住んでみる」という滞在スタイルを提供しています。

玉村屋は2019年2月に開業して以来、お越しになった方の半分以上



がリピーターとなり、何度も南越前町に通い、地域の人と関わる拠点となっています。何度も通ってくださった方の「もう少し長く滞在してみたい」という声に応え、2021年5月に「はななか荘」を開業。ここは2週間以上1年未満のお試し居住の賃貸拠点として運営しています。

町から運営委託を受けている「今庄宿ローカルベンチャー事業」は、私たちが空き家をリノベーションした宿やシェアハウスを運営している経験をもとに、これから地域で空き家を使って、なにか起業をしてみたい人を増やす取り組みです。



また、自分自身の事業

だけではなく、花はすや梅などの季節毎に地域で人手を求められる現場にもお手伝いに行きます。その際、自分だけではなく宿に泊まった方、シェアハウスに滞在された方も一緒に手伝ってもらうことで、人手不足に悩む生産者さんなどから「若い人を連れてきてくれて助かった」との声もいただいております。

地域という場所に関わり、「地域にある資源を使って、地域を持続するものに整えるのをお手伝いしたい」と考えていた移住理由が最近になって、ようやく形になってきていると考えています。



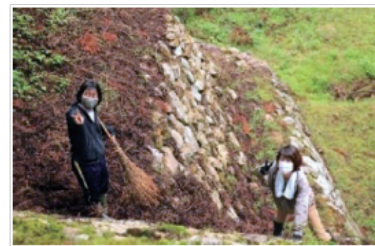
宇野 朱美

南越前町のリアルな暮らしを体感してもらう滞在場所として、私の住んでいるお家をDaisanという名前で住み開きしています。日々の暮らしに迷いがあったり、立ち止まったりしたいときに一息付ける、訪れた方の「第三の場所」になればよいと思っています。

Daisanには、まちみらいチャレンジの学生さんや、流動創生事業のころから南越前町に来てく

れている人、南越前町の活動に興味を持ってくださる県内外の方々が滞在しにやってきました。

南越前町の空気感や人の優しさにふれ、何度も訪れてくれる人がいます。私自身も日々の何気ないくらしや風景に癒されているので、それをいろんな人に感じてもらえたらと思っています。



ん山海里の観光案内所で働くなど、4つほどの仕事をしています。様々な仕事で南越前町に関わり、盛り上げていけるようなことが出来たらと思っています。

「ひと」と「ひと」「ひと」と「地域」をつなぐ架け橋に

